

平成20年度第2回平塚市美術館協議会会議録

開催日時	平成21年3月25日(水)14時~15時05分
開催場所	平塚市美術館 研修室
出席者	委員 山梨委員、田代委員、村上委員、朝野委員、小宮委員、野谷委員 事務局 栗原社会教育部長、草薙館長、鈴木副館長、小澤館長代理、土方館長代理、 端山学芸員、小池学芸員、勝山学芸員、江口学芸員、野村主査
傍聴者	なし

会議(次第に沿って進行)

1 開会 鈴木副館長

2 社会教育部長あいさつ

3 委員・職員紹介

4 議題

(1)平成20年度の事業報告について

・下記の項目について事務局から説明

作品・資料 - 収集作品、展覧会展示点数、作品貸出、保存修復等

展覧会 - 10月以降の実施状況

教育普及事業 - 実施状況

その他 - 付帯施設の利用状況、ミュージアムコンサートの実施状況など

(2)平成21年度事業計画(案)について

下記の項目について事務局から説明

展覧会(案) - 平成21年度事業計画(案)の概略について説明

教育普及(案) - 平成21年度事業計画(案)の概略について説明

その他 - 上記、以外の事業計画(案)について説明

5 質疑応答

(1)平成20年度の事業報告について

・寄贈作品について

(質疑) - 今年度の寄贈作品の点数が多いが、どのような経緯があるのか。また、どのような作品か?

(応答) - 19・20年度にそれぞれ開催した展覧会がきっかけとなり、作品を寄贈していただけたことになった。特に伊藤彬氏に多数寄贈いただいたのが理由である。また、寄贈された伊藤氏の作品は、1990年代に製作された墨を使った作品が主である。

・寄贈の基準について

(委員) - 寄贈作品の受け入れはどのようにして決まるのか。また、寄贈の申し出を断ることはあるのか。

(応答) - 平塚市美術品選定評価委員会によって受け入れの是非を決めている。寄贈の申し入れがあったとしても安易に受け入れることはない。また、絵の状態や寄贈主の事情によって、寄贈の辞退や寄贈の話が立ち消えになることもある。

・収蔵庫について

(委員) - 収蔵庫はいっぱいになっていないのか?

(応答) - 現時点では余裕がある。また、先日、収蔵庫の整理も実施した。

(2)平成21年度事業計画(案)について

・わたしがえらんだ いわさきちひろ(以下、「ちひろ展」と表記)について

(委員) - わたしがえらんだの「わたし」は、誰を指しているのか。

(応答) - 出品作品の一覧を載せたメッセージチラシを配布し、市民から人気投票をしてもらう。また、それらのメッセージを展覧会で掲出する。そういう意味の「わたし」である。

(委員) - 20年度の田島征三展では、木の実を使ったワークショップ(体験型)展示があった。これが後の市民アートギャラリーでの特別支援学級の児童・生徒の制作作品への展示につながった。今回は同様の展示はないのか。

(応答) - 展覧会の開催は、作家や貸主の意向によって左右される。ちひろ展の開催には、貸

主のいわさきちひろ美術館からの意向もあり、展示内容や展示方法についても指定されているので展示としては難しい。

(委員) - ちひろ展では、中学生ボランティアを募集することのこと。夏休みは、子どもたちが部活動で忙しくなる期間があるのでボランティア活動の期間に配慮してほしい。また、学校によっては美術部がないので、その点についても配慮してほしい。

(応答) - 中学生ボランティアは新しい試みである。配慮できる点は取り入れつつ、今後に生かして行きたい。

・日本のカーデザイン展について

(委員) - サブタイトルに「情熱と機能の美」とあるが、情熱とは何を指しているのか。

(応答) - 自動車は、外観の美しさだけでなく、機械や車体の機能にも美についても追求している。また、開発への情熱が美を生んだことも紹介したい。

(委員) - この展示について、特定企業が特別協力されることになっているが、公立美術館として懸念されるはなかったか。

(応答) - 当然予想した。自動車の展覧会を企画する場合、複数の企業の技術や実車を並列展示することはありえないことである。また、実車を運ぶ輸送費も多額になる。今回、特別協力いただける日産自動車(株)は、当市に本社を構える日産車体(株)の親会社であり、可能な限りの御協力をいただけることになった。地元としての利点を活用・展開するきっかけとなればと考えている。

(応答) - 元来この企画展の話は、3年近く前に持ち上がっていた。その時点で企業側でもこの企画について心配していた。また、当館に自動車を専門とした学芸員もいないため、展示の構成や展示方法についても暖め続けていた。サブタイトルの「情熱と機能の美」はその産物である。

・美術品購入について

(委員) - 美術品購入予算がついたことは美術館にとっては嬉しいことだろうが、この時勢のなか、なぜ予算がついたのか。

(応答) - 以前から美術品購入費については予算計上しているが、施設の補修などの優先順位の高いものに吸収されている。今回たまたま特定目的の寄附行為があった結果である。

6 その他

・平成20年度企画展のアンケート結果をまとめた資料の提示

・「平塚市美術館の彫刻」(配置図)の改訂版を提示

7 館長あいさつ

本協議会の任期が21年7月までであることを確認し、閉会。

以 上